

第3回 SC サテライト放送株式会社 番組審議委員会 議事録

1. 開催日時： 平成 27 年 12 月 2 日（水）14 時 30 分～16 時 00 分
2. 開催場所： リバーゲート 11 階
3. 審議委員出席者：
委員総数 7 名（出席委員： 6 名）
出席委員の氏名 音好宏氏（委員長）、入江たのし氏、五井千鶴子氏、棚橋節子氏
桧山珠美氏、細川幸一氏
欠席委員の氏名 万場徹氏
4. 事業者側出席者：
SC サテライト放送株式会社
代表取締役社長 佐々木良太
取締役 上原宏一
取締役 星野友昭
監査役 吉岡徹郎

ジュピターショッピングチャンネル株式会社
執行役員／プランニング&プログラミング本部 副本部長 増田美智代
プログラミング部 部長 尾崎由生子

日本テレビ放送網株式会社
事業局有料放送事業部 担当部次長 齋藤光
報道局マルチニュース制作部 担当副部長
「日テレNEWS 24」 担当プロデューサー 藤井潤
5. 番組審議
(1) SC サテライト放送株式会社で放送するチャンネルの審議
① 「ショッピングチャンネル」(055 c h)
 - a. 審議番組：「ヴィーナスナビ 最旬！秋の褒められスタイル」
 - b. 放送日時： 2015 年 9 月 24 日（木） 23:00～24:00
 - c. 番組概要： 上質でスタイリッシュな装いを好む 40 代をターゲットとしたコンセプト番組。番組内では、40 代女性が本当に知りたい情報を提供。今回は大人の上質カジュアルをテーマとし、新ブランドからカジュアルを昇華させるシーズンアイテムをご紹介します。

<審議委員意見ならびに事業者側回答>

ヴィーナスナビは、通常番組と比較し、テンポが遅くゆったりしており、今回のテーマが秋であるためか全体的な色調も淡く、「これがショッピングチャンネル？」という印象を抱いた。

ヴィーナスナビは、全体的に落ち着いたテンポで展開されており、お客様との生電話は紹介せず、また「残りいくつ」という表現を極力抑えるというコンセプトの下で番組が制作されているためそのように感じられたのではないかと。

家庭用品表示法に基づく繊維製品品質表示規程が改正されたこともあり、画面左側にある素材表示の下に洗濯表示を入れることで、視聴者が商品を選択しやすくなるのでは？

現行のシステム上、画面左側のスペース使用には、文字制限等がある為、現状対応は難しい。ただ、洗濯等に関するお問い合わせは少なくないため、テロップやフリップを活用する等の方法で対応することを検討したい。

商品の在庫の状態が、“緑色：在庫あり、黄色：残りわずか、紫色：キャンセル待ち、赤色：受付終了”と、色によって分けられているが、わかりづらく感じた。

在庫表示方法変更により、色やサイズの各々の在庫を、色で区別し表示している。番組進行役のコメントを含め、商品の在庫状況をわかりやすく説明したいと思う。

今年のトレンドはよくわかったが、価格帯が高い洋服であるがゆえに、一度着た洋服の保管方法や、このような高級なカジュアル服をどこへ着ていくのか等の生活に密着した情報が、進行役とゲストの二人の会話で展開されるとよかった。

着こなし含め、お手入れ・クリーニングの方法・しまい方等の情報も番組に取り入れていけたらと思う。テレビでは扱える情報量に限界があるため、当社 Web サイトも活かした総合的な展開により様々な情報を発信していきたい。

テレビでこのような番組を放送することへのチャレンジと迷いがはっきり出た番組と感じた。若めの方への提案であるにもかかわらず、番組内では素材の機能等の説明に重きを置いており、理屈っぽくなってしまっているように感じた。提案の仕方、商品のラインナップ等を考える際に、視聴者の感覚を取り入れるとよりよい番組になるのでは。

他との差別化を図るために、また説明がないとこの価格帯で安心して購入していただけないこともあり、番組内での素材の機能等の説明が多くなってしまう傾向にある。どの年代をターゲットとし、どのように提案するかは常に課題となるので、今後詰めていきたい。

番組にゴージャス感があり、テンポ・緩急もよいと感じた。商品を購入した後の活用方法、効用等の紹介があると、この番組の枠がもつ価値を編成全体の中で見せることができると感じた。

購入した後どうなる、という視点を大事にし、お客様目線での番組作りを展開していきたい。そしてこの番組を通じ生まれたアイディアを他の番組に役立てていきたいと思う。

②「日テレNEWS24」(349ch)

- a. 審議番組：「ストレイトニュース」および「ブレーキング」
- b. 放送日時：2015年10月7日(水)11:30~12:00 および9月10日(木)15:33~16:03
- c. 番組概要：「ストレイトニュース」は、冒頭15分は地上波でもOAされており、日本テレビが目指す地上波・BS・CSの3波総合編成戦略を体現している番組。「ブレーキング」では、関東豪雨被害による鬼怒川堤防決壊を取り上げており、救出活動の様子をブレーキングで約6時間放送。

<審議委員意見ならびに事業者側回答>

災害放送がショー化していないか？ 6時間放送し続けたことの是非は？

当社の報道使命は、「命を救う報道」であり、今回の災害報道でも、テレビ画面の右下の表示で雨の状況を伝え、随時キャスターが避難を促すコメントをいれていくことを基本としている。ショーと捉えられる向きもあるかもしれないが、周辺に住む方へ避難を促す報道を行うことで一人でも多くの命を救えれば、という使命の下、コメントや画面表示含めて工夫しながら災害報道にあたっている。

今回、途中で放送を切り上げるタイミングもあったかもしれないが、ヘリによる救助の様子をつぶさに放送している中で、近隣にお住まいの方の中にはご家族等の安否を気遣いながら見ている視聴者もいるのではという観点から放送を続け、結果的に6時間の放送となった。放送終了後に「6時間続ける必要があったのか?」、「途中でニュースを挟むべきだったのか」等、様々な議論がなされたが、今後も継続して考えていきたいと思う。

当事者または近い人にとってTVの災害報道は、非常に重要であることを過去の災害から身をもって経験していたため、番組に見入ってしまった。またカメラワークに敬服した。

それらの方々にとって、「情報が欲しい」というのは切実な思いであるため、安否情報を迅速に報道できることが理想。今回は自治体が混乱しており、情報が錯綜した。そうは言いつつも、もっと安否情報をより早く集約できなかったのかという反省の念がある。情報が錯綜する中で、どのように伝えるのかという問題は、我々の中で常に課題として残っている。

日本テレビでは、災害が2~3日継続する場合を想定した訓練を実施しており、訓練の中で、地上波のチャンネルをマルチチャンネル化し、一つのチャンネルでは、本線としてニュースを伝え、もう一方では、人名や避難所の情報を読み上げることを行っている。また、このマルチチャンネル化の訓練に伴い、地上波のスタジオを災害報道中心に、N24のスタジオを急遽人名や避難所を読み上げる報道中心にするといったスタジオのすみわけも行っている。

災害報道時、取材のヘリコプターが救助の邪魔となっていないのかという意見を聞くが？

マスコミのヘリコプターには「最低安全高度」という航空法で定められた最低の高度が決められている（注：人や家の密集地であれば最も高いビルなどの障害物から 300m 以上、そうでない場合でも 150m の高さを維持しなければならない）。この高度は、救助の邪魔にならないよう、救助のヘリコプターの遙か上空に設定されていて、自衛隊や消防・警察の救助ヘリコプターはマスコミのヘリコプターの遙か下で救助を行っているため邪魔とはなっていない。

災害報道の際に、常時バナーで経済情報（日経平均株価等）が表示されることに違和感を覚えた。ストレイトニュースの終盤の天気予報が、天気図とアナウンスだけで暗く、おざなりに聞こえてしまう。

今回の災害報道に際し、不要な情報を外すべく画面下のロールスーパーで伝えるニュースのうち、文化芸能関連は外し、被害系の情報中心に切り替えた。経済情報も不要なのではとのご指摘は、今後参考にしたい。

天気予報では、事前に収録した音声を自動で流しているのもそのように聞こえてしまうのかもしれない。現在、朝・晩を中心に放送している気象予報士による生解説コーナーを午後に増設することを検討中。

先般のパリ同時多発テロのように、テロ等が発生すると、地上波の延長として、ニュースの専門チャンネルの位置づけが非常に重要になってくると思う。日本テレビの強みは、系列局のネットワークを駆使していることにあると思うが。

同時多発テロの報道は、全体把握までに時間を要するにもかかわらず、支局員の人数に限られており、また支局員の安全保全も大事になってくるため、非常に悩ましく難しいと感じている。

日本テレビのローカル各局にはパワーがあると自負している。災害発生時、ローカル局で1時間の特番を組むことがあるが、N24 ではその特番をそのまま放送している。これは、ローカル局に 1 時間を任せられるという安心感があってのものであり、今後もこのような特番を放送していきたいと思っている。

資料の提出について

平成 28 年 月 日

総務大臣殿

郵便番号 103-0015

住 所 東京都中央区日本橋箱崎町 36-2

名称 SC サテライト放送株式会社

代表者の氏名 だいひょうとりしまりやくしゃちょう 代表取締役社長 さ さ き 佐々木 りょう た 良太

放送法第 175 条及び放送法施行令第 7 条第 3 号の規定により、下記の資料を提出します。

記

1. 番組審議委員会議事録

以上